



大国小だより

大国小学校だより
平成28年10月18日
発行 大国小学校校長室

本校の「学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日（火）に全国の小学校6年生，中学校3年生を対象に実施されました。

本校でも，6年生76名が参加しました。調査内容は，大きく①教科に関する問題（国語・算数）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ，国語と算数はA：主として「知識」に関する問題とB：主として「活用」に関する問題に分かれています。

この調査は，本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより，今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

過日文科科学省から本校の結果が送られてきました。本校でも運動会などの学校行事への取組と並行して，調査結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので，その概要を保護者や地域の皆様にお知らせするとともに，ホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお，調査に参加しました6年生一人一人には，個別懇談等を利用して個人票をもとに，具体的に課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

～ 分析結果の概要 ～

1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は，国語A，国語B，算数A，算数Bは，全国平均をやや下回っていました。次に示す課題の改善に向けて取り組む必要があると思います。また，国語も算数も，A「知識」よりB「活用」になると，苦手傾向が顕著になります。

2 本校の主な課題

国語

A：主として「知識」に関する問題

- 学年別漢字配当表に示されている漢字の正しい読みと書きの定着が不十分である。
- 書き手の表現の仕方をより良くするための助言をする設問の正答率が低い。
- 登場人物の人物像について，複数の叙述を基にとらえる設問の正答率が低い。
- ローマ字の読み書きの定着が不十分である。

B：主として「活用」に関する問題

- 目的に応じて，質問したいことを整理する設問の正答率が低い。
- 目的や意図に応じて（課題を発見するため 解決方法を発見するため）グラフを基にして分かったことや自分の考えを書くという設問の正答率が低い。



- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫するのが苦手である。
- 話し手の意図を捉えながら、話の展開に沿って質問を考えることと、紹介したい内容を的確におさえまとめて書くことが苦手である。

算 数

A：主として「知識」に関する問題

- 「除数が1より小さい時、商が被除数より大きくなること」「除数と被除数に同じ数をかけても商は 変わらないこと」「除数における計算の確かめの方法」についての理解が不十分である。
- 末尾の位がそろっていない小数の加法・小数の除法・分数×整数計算の定着が不十分である。
- 直方体における面と面との位置関係の理解が不十分である。
- 示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式を立てるのが苦手である。
- 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係の理解が不十分である。
- 「単位量あたりの人数を求める式を書く問題（1平方メートルあたりの人数）」と「示された場面を適切に読み取り、全体の人数を式で表す問題」は、正答率が低かった。



B：主として「活用」に関する問題

- 「正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると、面積が4cm²小さくなる。」という理由を説明する設問の正答率が低い。
- ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルを求める設問の正答率が低い。
- 目標タイムを求める式の中の「0.4」や「0.3」が表す意味を書く設問の正答率が低い。
- 縦39cm横54cmの長方形の厚紙から1辺が9cmの正方形を24個切り取れる理由を、問題文の中に登場するはるおさんの説明の続きに、書き加えるという設問の正答率が低い。
- 2つのグラフを見比べ読み取り、示された事柄が正しくない理由を書くという設問の正答率が低い。
- 指定された四角形を並べてできる図形を選ぶ設問の正答率が低い。

3 教科における主な改善点

国 語

- *漢字を習得させるために、新出漢字を繰り返し練習したり、既習の漢字を意図的に復習したりできるように指導する。
- *新聞の記事やコラムを読むときに、表現の工夫に着目しながら、読むことができるように指導する。そうして、表現の工夫を学び活用できるように指導する。
- *目的や意図に応じて取材し、内容を整理しながら記事を書くという活動を積極的に取り入れる。
- *資料を活用し、図や表、グラフなどに関連づけ、それらを根拠として自分の考えを書くという活動を取り入れる。

算 数

- *小数の加法・除法、分数×整数の計算等の計算練習をくり返し行うように指導し、その定着を図る。
- *直方体や立方体の面と面との関係（垂直・平行）を、具体物を使いながら理解を図る。
- *立式する際に、その式について説明できるようにする。
- *割合を百分率で表す場面で、基準量と比較量の関係を図で表現できるよう指導する。

*授業の中で、自分の考えを発表したり、友だちの考えを理解したりする場をより多く設けていく。
特に立式の際は、その式の中の計算や数字が何を表しているのかを説明できるようにしていく。

4 質問紙調査における本校の主な特徴

【質問紙調査】は全部で85の質問から成り、その内容は学習意欲、学習状況、学校生活、基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション、地域との関わり、社会に対する興味・関心、将来に対する意識、自尊意識、規範意識など多岐にわたっています。質問に対する回答結果から、個々の学習のあり方における課題や生活状況の実態を把握し、その改善に役立てることが【質問紙調査】の主な目的です。

自分について

- 「将来の夢や目標を持っていますか」は、全国平均を上回っている。
- 「友達と話し合う時、友達の話聞く」は全国平均を上回っているが、「友達の前で発表することは、得意ですか」は、全国平均をやや下回る。
- 「友達との約束を守っていますか」は、全国平均を上回っている。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、全国平均とほぼ同じだが、「どちらかといえばあてはまらない」が全国平均よりも上回っている。

家庭生活について

- 「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話しますか」と「家の手伝いをしますか」は、全国平均を上回っている。
- 「新聞を読んでいますか」は、全国平均を下回っている。



学校生活について

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」は、全国平均を下回っている。
- 「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」「学校で好きな授業がありますか」は、全国平均とほぼ同等である。
- 「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよくやっていたと思いますか」は、全国平均を上回った。
- 国語の時間、意見を発表する際に、うまく伝わるように組み立てを工夫したり、考えの理由が分かるように自分の考えを書いたりすることに、苦手意識を持っている。
- 「算数が好きですか」は、全国平均を上回っている。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったときに、それを解いてみたいと思いますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」は、「どちらかといえばあてはまらない」という児童が全国平均より上回り、解いたり考えたりすることに、苦手意識がある。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」も、「どちらかといえばあてはまらない」が、全国平均を上回り、苦手意識がある。

規範意識について

- 「学校のきまりは守っていますか」は、守っている子がほとんどだが、「どちらかといえば守っていない」とする児童が全国平均より多かった。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は、全国平均を上回っている。

生活習慣について

- 「朝食を毎日食べていますか」は、全国平均をやや下回っている。
- 「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」については、全国平均と同等だが、午前0時以降に就寝する場合も見られる。
- 「1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVDをみたりしますか」「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」に対して「4時間以上」は、全国平均を上回っている。
- 「1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか」に対して、「4時間以上」は、全国平均を上回っている。

家庭学習について

- 「家で、学校の宿題をしていますか」に対し「している」「どちらかといえばしている」と回答している児童は、全国平均とほぼ同じ。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」に対しては、「している」「どちらかといえばしている」ともに全国平均を下回っている。
- 「授業の予習をしていますか」「復習をしていますか」については、「している」と回答している児童は、全国平均より下回るが、逆に「全くしてない」は、全国平均を上回る。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」については、「30分以上、1時間より少ない」「30分より少ない」「全くしない」が、全国平均よりも上回っている。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という設問に対しても、「1時間より少ない」は、全国平均より上回っている。これらの結果から、本校の児童の特徴としては、家庭学習に長時間取り組む児童が少ないと言える。



地域や社会との関わりについて

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」は、肯定的な回答が全国平均より やや低い。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」に対しても、肯定的な回答が全国平均よりやや低い。

5 質問紙調査からの改善点

- *児童の「学校に行くのが楽しい」という気持ちを大切にするとともに、児童一人一人が生き生きとして達成感や成就感を持てるような教育活動の推進に今後も努力していく。
- *「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした基本的な生活習慣の確立に向けて、さらに家庭への協力をお願いする。
- *宿題以外の家庭学習の時間確保と時間伸長のために、家庭学習の方法やその内容について、学活等を通じて指導を行う。
- *ゲーム、携帯電話、スマートフォン等の使い方について、家庭と連携しながら指導していく。